

新概念やキーワードのアップデートを!

片岡仁美

京都大学 医学教育・国際化推進センター



学生時代、各科を回るたびに飛び交う略語やタームがわからず、カンファレンスや回診で目を白黒させた覚えがある。今、医学教育を本務として学生に接する

と、時代は変わっても、今の学生も同じように感じていることに驚く。この情報過多の時代にあっても、専門用語はハードルが高いということだろう。

総合診療領域は広い守備範囲が特徴であるが、全部の領域の最先端を常にアップデートすることは、決して容易ではない。しかし、診断や治療を一変させるような新概念やキーワードは、その分野の専門医でなくともぜひ知っておきたい。

本特集はそのような「ぜひとも知っておきたい新語・新概念」を、各分野のエキスパートが厳選し、解説するという何とも贅沢な特集である。本特集はあえて辞典のように五十音順で構成し、分野別のタームの一覧については、「[[総論] 一目でわかる新語・新概念」(p.128～)で各エキスパートから解説いただいた。

通読することで「最近よく聞くあのタームを知りたい」というニーズにも、「今のキーワードを広く学びたい」というニーズにも、応えられる特集ではないだろうか。 

大塚勇輝

岡山大学病院 総合内科・総合診療科



General mind と Specialty をもった Academic physician を目指して研鑽しています。医学部卒業から7年が経ち、各分野の系統講義や臨床実習、卒後研修

で学んだ“最新知識”は、すでにその分野の“常識”となり、次々と現れる聞き馴染みのない疾患概念や治療法たちに日々圧倒されています。なんとか食らいついていこうとアンテナを高くしていても、コロナ渦で加速した医学情報のアップデートの速さにはもはや追い付けず、この先30年、40年と続く医師人生を乗り切ることができるのか、早くも不安になっています。

そんなことを考えている時に、本特集企画に携わる機会をいただきました。総合診療医が診断・マネジメントすべき疾患や患者さんを診るためには、幅広く、深い知識が必要となります。本特集では各分野の先生方に、それぞれの分野でのホットトピックをピックアップいただきましたので、そうした知識を知り、学ぶきっかけになればと思います。

最後になりましたが、ご執筆くださった先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。 

Editorial